

シリーズ(その⑧)

トライシティー TRY ICT やすぎ

ICT(情報通信技術)を活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

失敗を恐れず、 課題にチャレンジ

6月、島田小学校2年生の児童がプログラミングロボットを使った学習に挑戦しました。1辺が15cmのサイコロ状の自走式ロボット。4人のグループになり相談しながら、ロボットの前進や左右への方向転換、回転などの命令が組み込まれたブロックの順序や数を決めながら与えられた課題の解決を目指します。

試行錯誤を繰り返し、1つ目の



▲ロボットが指定されたルートどおり動いていくかを考え、矢印ブロックを差し込みます。

課題を解決。たとえ失敗しても4人のグループ内での気づきを共有しながら修正し再挑戦。失敗と成功の体験を積み重ねながら用意された課題を次々と着実にクリアしていく学習活動です。教室内には児童たちが頭を近づけて相談する姿が見られたり、時に歓声や拍手が響いたりしていました。

市内小学校では、低学年から体験的なプログラミングの学習を始めています。小学校高学年用では室内用プログラミングドローン15機を準備しました。身近にある不便なことや世の中の課題を見つけ解決していくこととする意識をエネルギーとして、新たなものを生み出す創造力や、身近な課題を解決する思考力、そして周囲の人と一緒に物事に取り組み良さに気付いてくれることを期待したものです。失敗しても大丈夫。体験しながら学ぶことこそ、論理的に思考する能力の育成につながるものと考えています。

問い合わせ

学校教育課 ☎23-3180

日本遺産を 巡るたたら の音色 日本遺産の 構成文化財 連載⑥



今月号は、たたら製鉄の繁栄ぶりを物語る鉄師御三家の佇まいや企業城下町として栄えた街並みを紹介します。

櫻井家(奥出雲町上阿井)は今の地へ江戸期に移住し、屋号を「可部屋」と称しました。松江藩主松平不昧公が当地を訪ねられた際に本陣宿をつとめ、以後藩主が六度も訪れています。「櫻井家住宅」は戦国の世をくぐり抜けて財を築いた櫻井家の歴史を物語ります。母屋は1738年の建造で、特に御成門越しに見える名勝日本庭園の「岩浪の滝」や歴代藩主を癒した「上の間」は必見です。

絲原家(奥出雲町大谷)は江戸時代初期から280年余りに渡ってたたらを営んだ名家であり、出雲、伯耆、備後の国境近くの山は、ほぼ絲原家のものだったと言われています。「絲原家住宅」は豪壮であり、黒門を抜けてのびる道に櫻などの大樹が縁どり、神域の社へと踏み入っていくような錯覚を起こしてしまいます。砂鉄を採取した場所を築庭した名勝出雲流庭

園は見どころです。

そして田部家(雲南市吉田町)が操業した「菅谷たたら山内」は操業当時の姿が世界で唯一現存し、「菅ノ鉄六場跡」、「菅谷鑛製鉄用具」、「大鍛冶屋道具」とあわせて、たたら製鉄に従事した職人やその家族たちの生活や息遣いを体感できます。特に高殿は1751年に田部家の一大生産拠点として建造。それから129年間、ここで操業されました。

また、「田部家土蔵群と吉田の街並み」は、自然の地形を利用し機能的に作られています。それぞれ異なるエリアが小路を通じて有機的に結びついています。石畳を敷いた本町通りのゆるやかな坂を下りきったあたりで目に入るのが、18にもおよぶなまこ壁の蔵が立ち並ぶ壮観な姿で、往時の面影を垣間見ることができ



▲田部家白壁土蔵群。

鉄師が生産した鉄は馬や舟で安来などの港へ集積され、更に海路で各地へ運ばれました。鉄師の繁栄は港を通してもたらされたものだったのです。

問い合わせ

和鋼博物館 ☎23-2500

